

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 いわき市立平第三中学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	いわき市立平第三中学校 1学年：185名 2学年：193名 計 278名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	パラスポーツに関する講演やパラスポーツの実体験を通して、障がい者スポーツについての理解を深めるとともに、「多様な文化を受け入れ、互いの人格を尊重し合い、共に力を合わせて生活する共生社会の実現」にむけて、考えを深める。さらに、講師の話から、自分の生き方（キャリア）について深く考える機会とする。
5 取組内容	(1)パラスポーツ（ボッチャ）に関する講演会及び体験会の実施 (令和2年9月19日 1学年) ①福島県ボッチャ協会の村上普子氏による講演 ○障がい者スポーツ（ボッチャ）について ○パラリンピズムについて ○共生社会の必要性について ②ボッチャの体験会 ○基本的なスキルとルール ○簡易ゲーム ○特別支援学級生徒への特別指導 ③事後指導 ○振り返り ○感想用紙の記入





(2)車いすバスケットボール体験教室の実施

(令和2年11月13日 2学年)

①事前学習

○パラリンピックについて

○共生社会とは何か

②車いすの準備、講師の移動介助（代表生徒）

③体験教室（生徒は1年生時に、同講師の講演を聞いている）

○講師 シドニーパラリンピック銅メダリスト

増子恵美氏ほか


○車いすの基本操作について

○ボールの基本操作とルールについて

○ゲーム体験（全員出場）

④振り返り



	
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボッチャや車いすバスケットボールなど、障がい者スポーツへの理解を深め、魅力を感じ取ることができた。 ○ 生徒の感想用紙には、「共生社会の必要性」に関する記述が多く見られた。 ○ 講師の講話や障がい者スポーツの体験を通して、「障がいを補う方法を共に考えること」や「日頃から周囲と協力し、声をかけ合うことのできる関係性を築くこと」の大切さを考えることができていた。 ○ 車いすバスケットボール体験教室では、準備や講師のサポートに生徒が携わることで、バリアフリーの重要性について考えを深めることができた。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講師の選定にあたり、いわき市教育委員会と連携を密にして、連絡調整をおこなった。 ○ 事業の実施にあたっては、福島県障がい者スポーツ協会や地域の関係団体（サンアビリティーズ）と内容や実施方法等について連絡をとりながら調整した。2年連続で障がい者スポーツを取り上げたことで、これらの各種団体とのつながりが構築され、学校としての財産となった。 ○ 車いすバスケットボール体験教室の実施にあたっては、すべての生徒に内容の濃い体験をさせたいとの思いから、学校のPTA費から経費を補助していただき、専用の車いすを他団体から借用して実施した。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック・パラリンピック教育推進事業の推進校として実施してきたが、教育的意義をふまえ、総合的な学習の年間指導計画の一部に明確に位置づけていくこと。 ○ 必要経費や講師の謝金等を支出する財源の確保。 ○ 関係団体等とのつながりを継続していくこと。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「共生社会の実現」というテーマを、次年度以降もキャリア教育の一部として継続して取り上げていく。これまでに構築された関係団体とのつながりを生かし、できれば同様の事業を継続して行っていきたいと考えている。